

報道各位

住民説明会後に発信された多摩市文書について（多摩市公式サイトに掲載）

2007年3月6日

川崎市麻生区はるひ野町内会  
エコプラザ対策部会

多摩市による説明会を受け、3月2日に当部会が発信しました見解(報道向け文書)にてご説明させて頂いた通り、平成19年2月24日(エコプラザ多摩)、25日(黒川公会堂)、多摩市による住民に対するエコプラザの設備改修について説明がありました。

3月1日、この説明会を受けて多摩市より正式な見解がWEBに掲載されましたので、この見解に対して、当部会のコメントを発信いたします。

多摩市発信の文書は、至って一方的な論理により改修工事の正当性、及び安全性を述べており、説明会における住民の質問、不安に答える内容になっていなく、かつ具体性に欠けております。説明会で住民が質問した内容に対して、答えた文書になっていないため、かえって住民の神経をさかなでる結果となりました。

また、本来行政は、本問題で一番不安に感じている子供をもつ母親たちに対してケアに取り組まなければいけないはずですが、まったく無視された内容となっているため、子供をもつ母親たちの不信感がますます募り多摩市への怒りへと発展してきています。近々、多摩市、稲城市、川崎市連合の母親で子供を守る会が発足すると聞いております。

上記の通り、多摩市と住民とに大きい隔たりがあり、溝が埋まらないのは、近年、インターネットなどのインフラが進んだせいか住民の知識がかなり高度化し、それに対して多摩市は明確に答えられないところにあると分析しております。また、このような溝が埋まらない状況下でも、説明会を実施したという事実を残して、押し切ろうとしていると考えております。当事者の部会の意見では、信憑性が問われますが、説明会における住民の質問の多くは、冷静さを少し欠いたものの勉強され充実した内容であるのに対して、多摩市の回答は、同じことを繰り返した具体性の欠ける内容にとどまっております。おそらく、多摩市は、住民と対話してしまうと、よりリスクが少なく効率のよい方式が導き出され、今回決定した方式を見直さなければならぬ状況を恐れているものと考えております。

以上、多摩市発信文書及び今までの活動からの分析結果を報告いたします。